

## 言語行動としての英語の 'disclaimer' についての一考察

近 藤 富 英

### 1. disclaimer とは

関連した文が集まったいわゆる談話には目に見えない構造が存在することは最近の談話分析の研究で明らかになってきているが、さらに、われわれはその談話、とくに話し言葉の談話においては、一定のルールに従いながら、また場合によってはそれらのルールをさまざまな手段や戦略として用いている。ところで、話し言葉の特徴のひとつとして自然な流れを突如、打ち切るようなぎこちなさ(disfluency)が挙げられる。たとえば、繰り返しや挿入、あるいはI meanなどの言い誤りを訂正する自己修正などがあるが、これらのぎこちなさや冗長は、むしろ意味の理解を助け、コミュニケーションを円滑にしていると考えられる。これらの手段の中で、われわれがコミュニケーション全体をスムーズなものにしたり、時には自己を防衛したりするため、さまざまな表現を使用するものがある。ここでは自分の発言に対する責任の回避や、自説を強固なものではなく、むしろ見かけ上弱める種々の言語行動を disclaimer と呼ぶこととする。すなわち本論では、自分を守る言語行動という視点から disclaimer を捉えることとする。なお、disclaimer は日本語では前置き表現、先手表現、意見の差し控えなどと訳されることがある。

### 2. disclaimer の種類

本小論においては disclaimer を便宜上、次の3種類に分類した。

(1) 話題の種類そのものに関する前置きのようなもの

実際のコミュニケーションにおいては、場面や人間関係などをはじめとする外来的要素に基づいた話題の選択が重要になる。これは効果的に話題を始めるための disclaimer である。

例：I have a question to ask you, *but I'm not sure if it's personal one or not.*

(2) 話題に対する態度に関するもの

進行中の話題に対して、自分がそれをどう取り扱えるか、あるいは扱えないか示そうとする disclaimer をさす。

例：It's a *difficult question*, but I'll try.

(3) 話題の中での言語行動として働くもの

ある話題の展開中にさまざまな気持ちを言語行動として表すときの disclaimer である。

例：I *don't want to bother you*, but I must ask you to look after my daughter today.

映画「2001年宇宙の旅」では下のような会話が登場する。木星探査の旅に出た宇宙船の乗

組員の一人である Dale が宇宙船を管理している超高性能コンピュータである HAL に話しかけられる場面である。映画の中で HAL はあたかも感情を持つ人間のような話しぶりと振る舞いをする。

HAL : By the way, (1) *do you mind if I ask you a personal question?*

Dale : No, not at all.

HAL : Well, (3) *forgive me for being so inquisitive*, but during the past few weeks, I've wondered whether you might be having some second thoughts about the mission.

Dale : How do you mean?

HAL : Well, (2) *it's rather difficult to define*. Perhaps I'm just projecting my own concern about it.

(2001 : A Space Odyssey)

(1)~(3)の数字とその下線部は上の分類に対応しているが、以下にこの部分にあたる実際の字幕を参考までに示しておく。字幕という制限からかなり意識されている部分がある。

HAL : 個人的な質問をよろしいですか？

Dale : いいよ。

HAL : 立ち入った事ですが、今回の任務について疑問を抱いてやしませんか？

Dale : と言うと？

HAL : 何て言えばいいのか、実は私自身疑問を抱いています。

(1)においては個人的な質問、つまり相手の私的な話題に入ることを前もって告げることに、相手に準備をさせるとともに結果的には自分を守っている。このような disclaimer が無ければ、唐突な感じを相手に与え、時として相手の感情を害することもあるであろう。(2)では「はっきり言うのは難しいのだが」と言いながら、自分の意見がやや曖昧であることを前もって告げている。自分の話題に対する取り扱いが十分でないという予防線を張ることにより自分の話しぶりを正当化しているのである。(3)は、謝罪の気持ちが表れた disclaimer である。(1)~(3)までは種類は異なるが、すべて唐突で相手に失礼にならないようにすると同時に自分の言語行動を弁護するためのひとつの手段である。この映画の例からも分かるように、われわれはさまざまな disclaimer をとくに話し言葉において使用していることがわかる。

### 3. disclaimer の内容

日常の言語行動において disclaimer が頻繁に使われ、また「話題」と大きな関わりを持っていることがわかった。ここではその話題について言及しながら、それぞれの disclaimer についてさらに例を挙げながらその種類を考察する。

### 3.1. 話題の種類そのものに関する前置きのようなもの

#### 3.1.1. 話題に関する disclaimer

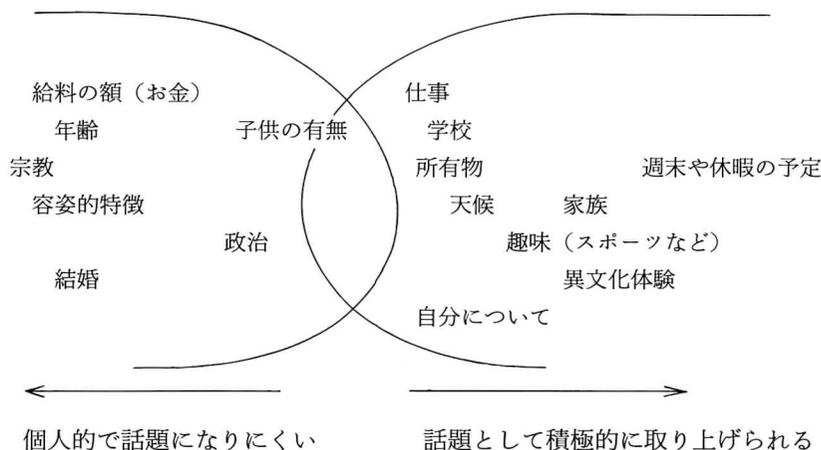
以下にこの種類に属する例をいくつか挙げる。

- (1) I'd like to ask you a question, but I'm not sure if it's considered personal in your culture.
- (2) Would you mind if I ask you a personal question?
- (3) I hope you don't mind if I ask you a personal question.
- (4) I have a question to ask you, but please don't answer it if you don't want to.

どの例も質問しながら新しい話題に入るときの断りとして disclaimer を使用している例である。異文化コミュニケーションの場合、取り上げていい話題が微妙に異なることがあるので<sup>(1)</sup>、とくにこれらの前置き表現が重要な役割を果たしてくる。

#### 3.1.2. 話題の選別

前項では文化によって取り上げられる話題が微妙に異なることを述べたが、ここではアメリカ文化における話題の種類について概観する。下に話題の種類と容認可能度を大まかに示してある。左にある話題ほど個人的で取り上げられにくいものであり、右に行くほど話題としての容認度は増してくる。



上記の図はあくまでも大まかな分類であるが日本と微妙な差は観察される。たとえば、最近でこそ、日本では女性の年齢について話題にすることは控えるようになったが、まだアメリカと比べれば上のスケールの右に位置するであろう。アメリカでは給料の額などの話題は控えられるが、お金全般については日本のほうがもっと話題になりにくいと思われる。ある年齢になっても結婚していない女性に対して、なぜ結婚していないのかと気軽に尋ねるのも日本人のほうがやりそうである。従っていわゆるアメリカ人とのやりとりにおいては左の話題を取り上げたいときには、disclaimer の使用が必要になるし、他の地域の人との会話では上の図は微妙に異なってくる。

### 3.2. 話題に対する態度に関するもの

これは先に挙げた *It's a difficult question, but I'll try.* のように相手の質問や進行中の話題に対して、取り扱えそうか取り扱えそうもないかを示し、結局は何らかのコメントを出すことが多いのであるが、その不十分さを前もって伝えておくものである。ほかには *That's a hard question for me to answer.* などもよく使われる。特徴的なことはこれらの disclaimer の前には *well* というディスコース・マーカーが使われることが多く<sup>(2)</sup>、また後には接続詞の *but* が続く。ところで、アメリカ人はたしかにこの disclaimer を使うのであるが、日本人のように謙遜や慎み深さのためではなく、言葉通りに受け取ってよいことが多い。従って日本人が丁寧さを示すためにこの disclaimer を多用すると偽善的と見られる場合もある。

### 3.3 話題の中で言語行動として働くもの

この種類が一番多いのであるが、ここではどういう場面で用いられるのか典型的な例を挙げながら<sup>(3)</sup>その種類と場面を示す。

#### (1) 自分が僭越（出しゃばり）かもしれないことを述べる場合

##### a. 異論を述べる

*If you will excuse my presumption, I should like to raise an objection to your idea.*

##### b. 自説述べる

*I hope my statement will not sound presumptuous, but I'd like to make the following point.*

##### c. 要請する

*I don't want to be presumptuous, but could you kindly send me a car?*

#### (2) 自分の意見に語弊があるかもしれないことを述べる場合

##### a. 自説を述べる

*I'm afraid my remarks may be out of place in this respect, but I'd like to make the following point.*

##### b. 批評する

*I'm afraid it is probably inappropriate to refer to this matter at this moment, but it may be very interesting to you.*

#### (3) 自分の知る（覚えている）限りではと言う場合

##### a. 評する

*As I remember, you made a mistake at the discussion.*

##### b. 批評する

*As far as I know, nobody in the class is volunteering to do the job.*

##### c. 自説を述べる

*As I understand it, the new law is a reaction to upsurge of nationwide vigorous protests against that serious accident.*

#### (4) ～したく（ありたく）ないがと言う場合

##### a. 中座するとき

*I don't want to be impolite, but I have to be excused.*

- b. 批判する  
*I don't like to sound like an old fogey, but I don't like long hair on boys.*
- c. 催促する  
*I don't like press you, but I could use the money you owe me.*
- d. 要請する  
*I don't want to bother you, but I must ask you to look after my daughter while I will be away.*
- e. 間違いの指摘・抗議  
*I don't want to hurt you, but you made a mistake at the discussion.*
- f. 要求する  
*I hate to say this, but do you think you could let me have my typewriter back?*
- g. 相手に不愉快なことを言う  
*I wish I didn't have to say this, but the board of directors has decided to cut down on the budget to a great extent.*
- (5) ~するつもりではないと言う場合
- a. 批判する  
*I don't mean to disparage Mr. White's contribution, but it seems to me to have had some dreadful consequences.*
- b. 情報を提供する  
*I'm not saying it's true, but there's a rumor going round that he's resigning.*
- c. 自説を述べる  
*It's not that I don't like him. It's just that I still can't tell what's going on inside his head.*
- (6) 自分の知識や経験, 資格の不足について言う場合
- a. 推測的な意見を述べる  
*I don't know but if you'll just bend the nail down in the back, maybe I'll slip off.*
- b. 情報を提供する  
*I'm not sure, but that department store seems to be closed at 6 p.m.*
- c. 発言を求める  
*I am not necessarily competent to speak to this point, but I believe perhaps he might also discuss the matter.*
- d. 自説を述べる  
*I'm not an expert in this area, but I believe that it would be very difficult to do that.*
- (7) 許可を希望する場合
- a. 批判する  
*His advice has proved to be wrong, if I may say so.*
- b. 異論を述べる  
*If I may be allowed to disagree, this plan would be extremely expensive.*
- c. 相手に不愉快な事をいう

*If you don't mind my saying so, your information turned out to be false.*

以上がこの種類に属する disclaimer である。用法的にはは自分の僭越さ、語弊、知識や経験不足などを前もって相手に伝えることにより会話をスムーズにしなが、状況的には異論や自説を述べたり、相手に要請を行ったり批判的なことを言ったり、さらには催促や間違いの指摘をしたり、さらには推測的な意見を述べたりするときに多く表れるようである。

#### 4. disclaimer の特徴

disclaimer には以下の特徴が見られることがわかる。

- (1) 文頭に来ることが多い。  
前置き表現とか導入表現と表されることからわかるように、文頭にくることが多い。しかし、文中に挿入されたり文末に補足されることもあり得る。
- (2) disclaimer の後に but や however が来ることが多い。
- (3) disclaimer には seem とか would like, should などの婉曲表現や語調を和らげる表現が多く使われるが、これは disclaimer の性格からいって当然のことであろう。
- (4) I'm afraid, in my opinion, as far as I know などの定型表現が利用されることが多い。

#### 5. 日本語との比較

disclaimer は日英語どちらにもよく使用されるいわゆる会話の手段である。ただし、最初に示した映画（2001年宇宙の旅）での日本語の字幕においては、はっきりした disclaimer としては翻訳されていない。これはもちろん字幕という制限からきているのかもしれないが、英語と日本語の出現の仕方には差があるようである。また、ほぼ同じ内容の disclaimer も文化によっては異なった効果をもたらす可能性もある。たとえば、日本語で「あまりよく知りませんが…」と言えば丁寧さや相手への気づかいを表すことがあっても、英語で I don't know exactly…と言った場合、もしかしたら相手の不安を増長させる結果になるかもしれないのである。また、場合によっては in my opinion という英語の言い回しが、日本語の「よくわからないけれど」とほぼ同じ意味合いを持つ可能性もある。また、personally I think が英語では「私はこう考えている、従って尊重して下さい」という意味合いを持つことが多いと思われるが、日本語になると「私が思うにこうです。従って取るに足らない意見です」ということになるかもしれない。このように disclaimer はどの文化でも使用されているわけであるが、その効果や働きは微妙に異なっている場合があり、異文化コミュニケーションの場合とはくに注意を要する。

#### 6. まとめ

言語行動にはその目的に応じてさまざまな手段が使われるが、disclaimer もそのひとつで、一言で言うと自分を擁護するために日常的に使われているものである。それは大まかなパターンに分かれ、特徴をいくつか指摘することができた。さらに文化に応じてそれらの微妙な

ニュアンスの違いの可能性も見受けられる。将来の研究課題としては、さまざまな事例研究が必要であり、その際は文化による差や、年齢、役割関係、性差などの外来的要素とともに明らかにしていくことがあげられる。

注：

- (1) イギリスでは家庭などに招待されたとき、そこの家の物を誉めることは、そのものが欲しいと暗に訴えることになるので、むやみに誉めないほうがいいとされている。また、*The Culture Puzzle* によると中国の年輩の女性は以下に示すように年齢をむしろ聞いて欲しいということである。Older women in my country like people to ask about their age. They want to let people know that they have lived a long life. (p.140)
- (2) well の種類や機能については近藤 (1991) を参照。
- (3) これらの例は学習英和辞書を参考にしたり、ネイティブ・スピーカーとの話し合いで作製したものである。

#### 参考文献

- Deena R. Levine et al. 1987 *The Culture Puzzle: Cross-Cultural Communication for English as a Second Language*, Prentice Hall Regents.
- Goffman, E. 1981 *Forms of Talk*, Oxford: Blackwell.
- 近藤富英 1991 「ディスコース・マーカーとしての well の機能とその種類」、『社会における言語機能の諸相』, 文化評論出版。
- Stubbs, M. 1983 *Discourse Analysis*, Univ. of Chicago.